



Title	A quasi-experimental controlled study of a school-based mental health programme to improve the self-esteem of primary school children
Author(s)	Iwahori, Miyuki
Citation	大阪大学, 2022, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/89660
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨

氏名（岩堀美雪）	
論文題名	A quasi-experimental controlled study of a school-based mental health programme to improve the self-esteem of primary school children（小学生の自尊心を向上させるための学校を拠点としたメンタルヘルス・プログラムの準実験的対照研究）
論文内容の要旨	
〈背景〉	
<p>自尊心はメンタルヘルスに関連している。低い自尊心は、摂食障害、抑うつ症状、不安症などにつながる可能性がある。子供の高い自尊心は、いじめの被害と関連している。自尊心の低い子供は、自尊心の高い同級生と比較して、成人期の身体的、社会的問題、およびメンタルヘルス関連の問題に苦しんでいる。Harterによれば、子供と青年の自尊心を発達させ維持する上で、2つの要因が重要な役割を果たす。1つ目は、個人的に重要な領域で認識される能力であり、2番目の要因は、子供たちが人生の重要な人々、特に両親、仲間、教師から提供し、受ける社会的支援のレベルである。Harterの自尊心向上理論を使用した以前のプログラムは、摂食障害の予防に限られており、小学生には効果が確認されていない。日本では、他国で見られる発達の軌跡と同様に、自尊心は小学校から中学校へと低下し、高校から成人期へと上昇している。日本的小中学校の生徒の自尊心は低下している。これらの問題を解決するために、Harterの理論を取り入れた宝物ファイルプログラム(TFP)を考案した。TFPのパイロットセッションがいくつかのクラスで実施された。ただし、まだ定量的に分析されていない。従って、この研究ではTFPの有効性を定量的に評価した。本研究は「TFPは、自尊心の低い小学生の子供たちの自尊心向上に有効である」という仮説を検証し、TFPが他の子供に何らかの副作用をもたらすかどうか、およびTFPが他の自己概念にどのように影響するかを明らかにすることを目的とした。</p>	
〈方法〉	
<p>介入群と対照群のある quasi-experimental designを用いて、KINDL-R質問票を使用した。KINDL-R質問票は、自尊心のドメインに加えて、身体的幸福、感情的幸福、家族、友人、学校との関係を評価するドメインが含まれている。各ドメインそれぞれ4つのアイテム、合計24項目で、各ドメインを個別に評価できる。合計スコアは100ポイントに変換した。9つの公立小学校から合計2297人の児童が参加した。不在の児童およびKINDL-Rを完了しなかった児童、研究とは関係のない都合で撤退した学校を除外し、分析は、介入群794人の児童（387人の男児と407人の女児）、および対照群592人の児童（299人の男児と293人の女児）を対象とした。調査は2016年4月から2017年3月まで実施した。介入群のTFPに参加したすべての教師は、合計4時間の同じトレーニングを受けた。プログラムは詳細にマニュアル化され、すべての教師が標準化されたテキストに従ってTFPカリキュラムを実施した。対照群は通常の授業を実施した。自尊心の低い子供に対するTFPの効果を調べるために、全ての児童をベースラインスコアに基づいて3つのグループ（低レベル・中レベル・高レベル）に分け、共分散分析の反復測定を使用して、各グループのTFP前後のスコアと評価期間の間の交互作用を調べた（カットポイント：KINDL-R自尊心スコア Average±1SD）。次に、TFPが自尊心に及ぼす影響と、身体的幸福、感情的幸福、家族、友人、学校に及ぼす二次的影響を調べるためにマルチレベル分析を実行した（信頼性の閾値：クラス内相関係数<0.1、設計効果<2.0）。さらに、ベースライン時と介入後において介入群と対照群の平均スコアの変化の違いと信頼区間を調べるためにt-テストを使用した。</p>	
〈結果〉	
<p>TFP介入群と対照群における自尊心レベル別のベースラインと介入後のスコアにおいて、低レベルと中レベルで効果が見られた。高レベルには影響は見られなかった。自尊心以外の領域には効果が見られなかった。ベースライン時と介入後の介入群と対照群の平均スコアの変化の違いにおいては、自尊心と友人領域に効果が見られた。</p>	
〈考察〉	
<p>低い自尊心は、メンタルヘルスの問題、身体の問題、社会問題に関連しているため、TFPは、これらの領域に改善をもたらす可能性がある。以前の研究を参考にすると、TFPは低い自尊心によって引き起こされる成人期の精神的及び肉体的健康の低下、経済的見通しの悪化を軽減する可能性がある。親の温かさや仲間の承認による自尊心の増加はナルシシズムにつながらないため、TFPはナルシシズムを誘発することなく自尊心を高める可能性がある。</p>	

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏名（岩堀美雪）		
	(職)	氏名
論文審査担当者		
主査	教授	片山 泰一
副査	教授	安倍 博
副査	准教授	荒木 友希子

論文審査の結果の要旨

自尊心はメンタルヘルスに関連している。低い自尊心は、摂食障害、抑うつ症状、不安症などにつながる可能性がある。子供の高い自尊心は、いじめの被害と関連している。自尊心の低い子供は、自尊心の高い同級生と比較して、成人期の身体的、社会的問題、およびメンタルヘルス関連の問題に苦しんでいる。Harterによれば、子供と青年の自尊心を発達させ維持する上で、2つの要因が重要な役割を果たす。1つ目は、個人的に重要な領域で認識される能力であり、2番目の要因は、子供たちが人生の重要な人々、特に両親、仲間、教師から提供し、受ける社会的支援のレベルである。Harterの自尊心向上理論を使用した以前のプログラムは、摂食障害の予防に限られており、小学生には効果が確認されていない。日本では、他国で見られる発達の軌跡と同様に、自尊心は小学校から中学校へと低下し、高校から成人期へと上昇している。日本の小中学校の生徒の自尊心の問題を解決するために、申請者はHarterの理論を取り入れた宝物ファイルプログラム(TFP: Treasure File Program)を考案した。TFPのパイロットセッションはいくつかのクラスすでに実施されているが、まだ定量的に分析されていない。本研究は「TFPは、自尊心の低い小学生の子供たちの自尊心向上に有効である」という仮説を定量的に検証すること目的とした。

本研究は quasi-experimental design で実施した。教育委員会と校長の同意のもと研究に参加した公立小学校の児童を2群に分け、介入群には2016年4月から2017年3月まで1年間TFPを、もう一方には同時期に対照群として通常授業を実施し、介入の前後で参加児童を対象にKINDL-R質問票による評価を行った。KINDL-R質問票は、自尊心のドメインに加えて、身体的幸福、感情的幸福、家族、友人、学校との関係を評価するドメインが含まれている。各ドメインそれぞれ4つのアイテム、合計24項目で、各ドメインを個別に評価できる。合計スコアは100ポイントに変換した。9つの公立小学校から合計2297人の児童が参加した。不在の児童およびKINDL-Rを完了しなかった児童、研究とは関係のない都合で撤退した学校を除外し、最終的な分析は、介入群794人の児童（387人の男児と407人の女児）、および対照群592人の児童（299人の男児と293人の女児）を対象とした。介入群のTFPに参加したすべての教師は、合計4時間の同じトレーニングを受けた。プログラムは詳細にマニュアル化され、すべての教師が標準化されたテキストに従ってTFPカリキュラムを実施した。自尊心の低い子供に対するTFPの効果を調べるために、全ての児童をベースラインスコアに基づいて3つのグループ（低レベル・中レベル・高レベル）に分け、共分散分析の反復測定を使用して各グループのTFP前後のスコアと評価期間の間の交互作用を調べた。

評価データを解析した結果、低レベルと中レベルの参加児童でTFP介入群の自尊心領域に有意な改善効果が見られたが、高レベルの参加児童にはTFP介入の影響は見られなかった。次に、TFPが自尊心に及ぼす影響と、身体的幸福、感情的幸福、家族、友人、学校に及ぼす二次的影響を調べるためにマルチレベル分析を実行したところ、自尊心領域のみにTFP介入による有意な改善効果が見られた。さらに、ベースライン時と介入後において介入群と対照群の平均スコアの変化の違いと信頼区間を調べたt-テストでは、自尊心と友人領域にTFP介入による有意な改善効果が見られた。

上記の通り、本研究論文ではTFPが自尊心の低い子供たちの自尊心向上に有効であることを証明した。また同時に、TFPが自尊心の高い子供や他の自己概念には影響を与えないことも明らかにした。以上の成果は、TFPの子供たちの自尊心への関与について新たな示唆を与えるものであり、学位の授与に値すると考えられる。